# 駒澤大学 学園通信

KOMAZAWA UNIVERSITY NEWS No. 300

駒澤大学学園通信第300号
【2012年1月8日発行】
発行所：駒澤大学
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢1-23-1
学園通信発行委員会事務局
TEL:03-3418-9828
FAX:03-3418-9017
http://www.komazawa-u.ac.jp/
テレフォンサービス
03-3418-9111/03-3418-9028

## 年頭にあたり

「魚が竜となる」　総長　田中　良昭
「水を運び柴(まき)を搬(はこ)ぶ」　学長　石井　清純

未来に繋がる自分へ繋げる

主な内容

在職中の思い出 ―― 4・5
駒澤大学東日本大震災被災学生支援金ご寄付のお礼 ―― 7
新司法試験合格体験記 ―― 8
就職支援 ―― 10
第２回創元SF短編賞受賞 ―― 13
大学３大駅伝 ―― 16

## ■新春　年頭にあたり

# 魚が竜となる

総長　田中　良昭

新年おめでとうございます。

昨年３月11日に発生した東日本大震災から既に10カ月が経過しました。改歳にあたり、被災された方々や放射能汚染の影響でご苦労を余儀なくされている方々が、１日も早く平穏な生活に戻ることができますよう、心より祈念申し上げます。

さて、今年の干支は辰で、竜を指します。竜は十二支の中で唯一想像上の動物で、角、たてがみ、鋭い爪を持ち、うろこで身を包まれた爬虫類の姿をしており、雲をよんで天に上るとか、渕にひそむ水神と考えられている不思議な存在です。中国では、山西省の河津（かしん）県と陝西（せんせい）省の韓城（かんじょう）県のあいだで黄河が竜門山を越え、滝となって落ちる所を竜門といい、魚がこの竜門の滝を上ることができると竜に変ずるといわれてきました。これから転じて出世の関門を登竜門というのです。禅寺でも一介の修行者（魚）が発心して修行に励み、やがてりっぱな禅僧（竜）になることにたとえられ、禅寺の入口の門を竜門、外界と禅寺の境内を隔てる川にかかった橋を竜門橋と呼ぶ例がみられます。

禅寺の入口の門がりっぱな禅僧を打ち出す登竜の門であるなら、社会に役立つ有能な人材の養成を目指す大学の校門も、登竜門としての意味を持つといえましょう。本学に入学した学生諸君は、日々の学生生活の中で自分自身がどれ程の転身が実現できているかに思いを致していただきたいと思います。４年後の卒業の際に、魚のままではなく、りっぱな竜と化して堂々と竜門を出られるよう、日々の精進を期待します。

# 水を運び柴（まき）を搬（はこ）ぶ

学長　石井　清純

年頭のご挨拶に代えて、昨年の東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、１日も早い復旧復興をお祈りいたします。

いま、日本全国が、震災からの立ち直りに向けて動いています。その中にあって、本学は、今年は開校130周年を、そして来年には駒沢移転100年という節目の年を迎えます。これまでの歩みを振り返りながら、社会や地域に対して何ができるかを真摯に考えていくべき時といえるでしょう。そしてそれは、復興の長期化が必至である状況に鑑（かんが）み、息の長い活動でなければなりません。

その時に当たり、私たちはどのような心構えで臨めばよいのか。その指針となるのが、「神通並妙用、運水也搬柴（神通ならびに妙用、水を運びまた柴（まき）を搬ぶ）」という禅語ではないでしょうか。

ここにいう「神通」とは、神通力のことです。超越的な力というのは、目を見張るような特別なものではなく、じつは水を汲みたきぎを運ぶという日々の作業そのものにある、という教えです。

とかく、人は特別な何かを珍重しがちです。しかし、いかに見栄えが良くとも、それが現状から遊離していては役に立ちません。この禅語は、常に自分の立ち位置を見つめつつ、地についた実践を続けていくことの大事さを示したものなのです。

本学が一つの区切りを迎える今、社会の変革に向かってどのように取り組むべきか、行動すべきかを常に心に置き、駒澤大学としての「水を運び、柴（まき）を搬ぶ」活動とは何かを考え実践していかねばなりません。

## 一転語

清清しい新年を迎えた。年末に散髪も済ませ、真新しい下着を身に着け、おろしたての箸でおせち料理をつまめば、それだけで気分は爽やか、何か新たなエネルギーが全身に漲ってくる◆でも、年を取ると１年が速い。清清しさもひっきりなしになると、どうしても色あせてくる。しかも年を取れば取るほど、それに比例するように、どんどん１年が短くなってくるように感じられる。何故だろうか◆私たちが経験する時間の長さ（たとえば１年間）の感覚は、自分の生きてきた全生涯の長さ（たとえば50年間）を基準として計られるから、という答え方がある。同じ１年間でも５歳の子供にとっては全生涯の1/5だから長く感じられ、50歳の大人にとってはほんの1/50にすぎないから短く感じられる、というのである。齢を重ねれば分母が大きくなるので、この分数の値は小さくなっていくわけだ◆しかし、ここから、私たちの時間の加速度感は自分の全生涯の記憶に基づいた確固としたものだ、などとは言えない。むしろ私たちは時間の加速度を感じるとき、無意識のうちに、自分の年齢という時計の時間の数を分母におき、１年間というこれもまた時計の時間の数を分子において、49歳から50歳になり全生涯の長さに占める１年間の割合が1/49から1/50へと縮小した、と計算しているに過ぎないのではないか◆「本当の時間は持続する、つまり途切れない」（ベルクソン）。記憶をフル回転させ、あらためて昨年１年間をじっくり振り返り、目立った出来事を繋ぐ凡庸な日々まで想い出せば、その時間の中身は実に濃密であり、加速度感は消滅して、清清しさが戻ってくるような気がする。

学園通信
第300号
記念特集

# 我らが校旗は雲と起これり

## —44年間継続、学園通信第300号に—

学園通信
発行委員会委員長
**橋本　長亮**

### 1．自己評価

300号発行に当たってここ２年ほどと創刊当時を、勝手に発行当事者の１人として自己評価をしてみた(内創刊号)。

①「学園通信」、学生から知名度30％(50％)②学生としての読後の重要度評価30％(60％)③情報としての信用度70％(40％)

学生に関心の高い「就職」「学生生活」について過去に私が寄稿した記事を、読んでもらいたい学生が果たして読んでいるかどうかを来談した学生に確認した経験を数値化してみた。

「こういうの見たことある？　ほら本館の２階のラックにある学園通信…」「…ありません」と学生。パラパラと捲(めく)って「ヘェー」と感心した様子。巷には、いやいや巷だけではない。学内売店でも商売のネタを派手なパンフレットで紹介しているから、今一つ冴えない学園通信に手を伸ばすわけには行かないということだろう。

だが学生はもとより教職員にも、情報の共有と大学への帰属意識を育てる芽としての「学園通信」の果たす役割は小さくないはず。「学園通信」はホームページでも公開されているが、今一度あるべき広報活動と「学園通信」を根本から考えてみる必要がある。

創刊以来、「学園通信」の「もうその話は過ぎたこと」「歯がゆくもどかしい」「大学にとって都合の悪いことは掲載しない」とする批判を受け入れながら新たな役割を模索したいものだ。

### 2．44年の歴史

昭和43(1968)年５月21日創刊。当時私は駒澤大学文学部社会学科の４年生。そして、現在キャリアセンター部長として発行委員。その間、学園通信が誕生した時は一学生読者、昭和44年からは大学職員として、あるいは発行所管部の担当、数度は執筆者としてついたり離れたりしながら関わってきた44年だ。

創刊号(5/21)から第２号(5/28)、号外(5/29)、３号(8/1)、４号(9/20)、号外(10/9)、５号(10/15)と１カ月に１回発行としながら慌しい発行である。それには理由がある。号外(5/29)以後、６月５日から45日間、大学は過激派学生に教場の約半分がバリケード封鎖され、残った教場を使っての臨時変則授業。学園通信は大学の統一した意思と、事態の経過と現状を学生に知らせるためのものとして発行された。

翌44年は年11回の発行が定期化したが、またしても６月13日から９月３日まで全学の建物・教場が過激派によりバリケードで封鎖・占拠、完全に授業ができなくなった。私は事務職員として採用され、４月から教務部へ配属された。

それまで全学学生協議会を名乗った活動家たちの勧誘対象の大多数の学生として、大学の対応が不平等・不誠実であり、実力行使が必然であるかを聞いた。教場でのクラス集会やアジビラ、４ｍ×５ｍ(？)の立て看板、屋外号館前で頻繁に開かれる自称学部自治会の大音量スピーカーを使っての決起集会であり、デモ行進だった。

その間、大学からは「無許可不法集会中止」といった掲示や立て看板が出され、学生部・総務部職員が制止するが聞くものではなかった。

事務職員になって見たこと、普通の学生の知らないところで活動家学生が入学試験日の正門に押しかけ「入試粉砕」妨害宣伝、入学式会場への突入だ。それに活動家同士での主導権争いの角材を持っての暴力沙汰。陰惨なことが起こっていた。

そんな大学の秩序を回復するために大学の実情と対応への支持を訴えるために発行されたのが「学園通信」だった。

今年、本学は開校130周年。大学の歴史で校舎が活動家学生にバリケードで封鎖され授業ができなかったこと。また、機動隊の見守る中、バリケードを撤去して逆に大学がロックアウト。学校の出入りに通行証と学生証を、検問に当たった教職員に提示する措置を取らなければ大学の秩序が回復できなかったことがあった。

このことは「駒澤大学120年史」には２～３行記されているのみ。いまや忘れ去られようとしている。しかし忘れてはいけないものだ。

いま、「学園通信」は年５回の発行である。ページ数も増やした、カラー化もした、タブロイド版からパンフレットタイプにもした。

入学式号、７月号、10月の開校記念日特集号、新年号、卒業式号。大学として年５回の情報発信は決して多くはない。また、時期に応じてパターン化し、読まないうちに「またか」と手の内を読まれるようではならない、と思うのだ。(完)

**学園通信のあゆみ**

| | | |
|---|---|---|
| 1968(昭和43) | 第１号 | 意思伝達･相互啓発の機関として学園通信第１号発行　発行当初は、毎月1回･20日付発行 |
| 1969(昭和44) | 第13号 | この年５月に玉電(東急玉川線)が営業終了　地下鉄「駒大前駅」設置に地元をあげ猛運動 |
| 1970(昭和45) | 第19号 | 一転語掲載開始 |
| 1973(昭和48) | 第45号 | 新図書館落成式盛大に挙行 |
| 1977(昭和52) | 第75号 | 東急新玉川線(現：田園都市線 渋谷～二子玉川)が開通 |
| 1978(昭和53) | 第84号 | 体育会空手道部全国制覇成る！ 完全優勝は大会初 |
| 1981(昭和56) | 第111号 | 全日本吹奏楽コンクール10年連続金賞受賞 |
| 1982(昭和57) | 第117号 | 開校百周年記念特集 |
| 1986(昭和61) | 第140号 | 陸上競技部　箱根駅伝往路２位総合４位 創部以来の快挙 |
| 1987(昭和62) | 第152号 | 第二研究館が完成　研究施設さらに充実 |
| 1988(昭和63) | 第158号 | 硬式野球部　東都大学リーグ戦V20を完全優勝で飾る |
| 1989(平成元) | 第167号 | “燃える男”中畑選手、さわやかに引退 駒澤大学特別功労賞の第１号に |
| 1991(平成３) | 第179号 | 富浦セミナーハウス完成！ 夏休みから使用開始 |
| 1993(平成５) | 第192号 | 国際交流　スタートより10年　７大学との交換協定締結進める |
| 1995(平成７) | 第200号 | 硬式野球部　学生代表としての初の栄冠　全日本アマチュア野球王座を制す |
| | 第204号 | サッカー部　悲願の初タイトル　関東大学選手権初優勝を飾る |
| | 第205号 | サッカー部　総理大臣杯 全日本大学トーナメント優勝 |
| | 臨時号 | 新カリキュラム特集 |
| 1997(平成９) | 第216号 | 関東圏17大学院での単位互換制度スタート |
| 1998(平成10) | 第218号 | 陸上競技部　出雲駅伝初制覇　勝利の王座ゆるぎなし駒大躍動 |
| | 第220号 | シンボルマーク決定　駒澤大学のイメージを社会にアピール |
| | 第223号 | 苫小牧駒澤大学　開学式盛大に開催 |
| 1999(平成11) | 第225号 | 北海道教養部35年の歴史に幕 |
| 2000(平成12) | 第230号 | 箱根駅伝往路･復路完全制覇　初優勝　創部37年目初の総合V |
| 2002(平成14) | 第242号 | 陸上競技部･箱根駅伝復路新！総合優勝　硬式野球部･明治神宮大会８年ぶりの日本一　サッカー部全日本大学サッカー３度目の優勝 |
| | 第247号 | 開校百二十周年を迎えて |
| 2004(平成16) | 第256号 | 法科大学院が開校 |
| | 第259号 | 駒大苫小牧高校快挙！ 夏の甲子園初優勝 |
| 2005(平成17) | 第260号 | 陸上競技部箱根駅伝総合優勝　破竹の４連覇 史上５校目の快挙 |
| 2007(平成19) | 第275号 | 医療健康科学部初の卒業生　診療放射線技師国家資格受験結果98％合格 |
| 2008(平成20) | 第282号 | 北京オリンピック出場!!　ボクシング部清水選手に熱いエールを!! |
| 2010(平成22) | 第290号 | 初制覇　空手道部女子優勝　全日本大学空手道選手権大会 |
| 2011(平成23) | 第297号 | 公認会計士試験に10人合格 うち２人は４年生現役で合格 |

# 在職中の思い出

## 無限霊苗種熟脱

仏教学部教授　**池田　魯參**

博士課程満期退学時、仏教学部助手に採用され、本年度で勤続44年になる。18歳で郷を出て、禅学科入学からだと優に半世紀以上。路面電車（玉電）が走っていた頃、あの時の建物は図書館（今の禅文化歴史博物館）だけ。大学院時代に東京オリンピックが来て、隣接地に公園が整備され、地下鉄が開通、大学周辺の景観も一変。隔世の感である。50代半ば頃までは、学究生活も学生指導も親身にでき、いい時代だった。その後は、公私共多事多難に過ぎ、教員の本分も充分全うできず遺憾。そんな中で、門下に優秀な研究者が１人２人と育ったことが唯一の救い。駒澤の天台学も外部から認められる程度に成っただろうか、と自らなぐさめ去る。初心忘るべからず。皆さん、どうぞお大事に。

## 感謝をこめて、一言

文学部教授　**林　達也**

駒澤大学の優れた制度の１つに「スポーツ推薦入学試験」がある。入学試験と銘打っている以上、この制度で入学した学生は、一般入試で入学した学生と、同等である。この制度が優れていると考える理由は、この制度の背後に、学業成績優秀な学生が貢献する文化と、運動能力優秀な学生が貢献する文化とは質的に同じだという思想を認めるからで、まさに「駒澤大学ならでは」である。しかし、現在、この制度で入学した学生の対応･評価を巡って、学生側･教員側双方に、ストレスがある。この制度を生かすため、学業成績優秀で入学した学生に対する学業成績評価と同じレベルの、スポーツ推薦入試入学学生への独自の評価方法が導入されなければ､両者は同等だということにはならない。是非、議論を。

## 時の流れとともに

経済学部教授　**森岡　仁**

私が駒澤大学に就職した1966年は高度経済成長の真っ只中で、裏の公園には２年前に開催されたオリンピックの余韻がまだ残っている時期であった。高成長による所得の増加は進学率を押し上げ、団塊の世代が大挙して大学に押し寄せる時代でもあった。当時の駒澤大学は学生数も少なく、７号館には駒大高校が同居していた。渋谷との間には路面電車が走り、あらゆる面で悠揚とした大学生活があったように記憶している。しかし路面電車がバスに変わり地下鉄が走る頃になると学生数は増え、学生気質も変わってきたようである。ペットボトルのお茶を飲み携帯電話を覗き込む受講生の姿は、以前には全く想像もできない風景であった。これからの大学はどのように変わっていくのか、じっくり見守ってみたい。

## ２人の卓越者、１人の不世出者、事務の方々

法学部教授　**相田　敏彦**

ライフワークなどというものではないが、研究に区切りをつける比較的長いものを2010年に出した。メディア学界には、戦後の研究を高いレベルでリードしてきた２人の‘星’がいるが、その１人が「重厚かつ先進的」と評してくれたのはありがたかった。厳しい批判精神で知られる人だったから、しかもその人の初期研究を‘やっつけて’いたので！　同年輩のもう１人の‘星’は74歳、75歳に各１冊上梓したほどの研究一筋の人だが、病に倒れられた。その人の強い勧めでロンドン在住の不世出の学者・思想家の謦咳に接することを得た（拙著あとがき参照）。法学部事務の目黒さん、高橋（久美子）さんがなくなった。激務の（学部）事務の方々の努力の何10分の１ができたかと今思う。

## 忘れてしまった卒業生の一言

経営学部教授　**前田　和利**

「年々歳々花相似たり歳々年々人同じからず」。在職42年間を振り返っての心境です。入学・卒業というサイクルを通して学生は入れ替わるが、それを越えてつながっている人も多い。2009年11月「経営学部40周年記念シンポジウム」が開催され、テーマ「経営学教育に求められるもの」の基調報告をし、討論にも参加した。その折、パネリストの卒業生Ａさん（当時三菱UFJ証券常務執行役員）から、（前田担当の）「『プロゼミ』の授業で『ろうし』を『労資』と書いて褒められたことが深い思い出となっている」と聞かされた。顔も名前も忘れていた卒業生からのこの一言は、恥ずかしさと同時に、私にとって一つの財産となることでしょう。

## 平成24年３月31日に定年退職される先生方に在職中の思い出を語っていただきました。

### 忘れ得ぬこと

総合教育研究部教授　**佐原　作美**

私が文学部助手として着任した昭和44年当時は、本学も大学紛争の渦中にあり、その影響で在校生と卒業生で作る国文学会が解散したことは忘れ難い。その後10年程苫小牧短大に在り、同57年に本学短大に戻ったが、久々に見た本学の発展と変容ぶりには驚いたものである。また度々の祝賀行事も印象に残るが、やはり恩師や同僚や職員から受けた数々の恩恵は尚忘れ難い。近年では、平成18年に短大が廃されたことは特に忘れ難い。そこで同21年12月にその存在を記念すべく、当局の支援のもと正門脇に枝垂れ桜が植えられた。同時にその根本に絶滅危惧種で万葉植物の紫草（むらさき）を播種。今夏その開花を見たが、その根は紫の染料であり本学のスクールカラーの藤色と同色である。その点からも今はそれらの一層の成長と本学の益々の発展とを願っている。

### 学生のこと

総合教育研究部教授　**前田　脩**

英語の教師をしていると、つい語学力から学生を見てしまいます。しかし学生と接しているうちに自分の小ささを思い知らされます。あるときボクシングをしている学生が、「先生、俺代表に選ばれました。だけど代表なんてなりたくないんす、試合の前は逃げたくなるんす」と言ってました。しかし実に誇らしげでした。つまり格闘技ですから、「逃げたくなる」ほどの緊張を味わっているのです。また、ゲームソフトのストーリーをもってきた学生もいました。一人ひとりいろいろな能力を持っています。ただ心残りなことが一つありました。電話で話していて、落胆ぶりが伝わってきた学生がいて、「与えられた状況から始めなさい、若いのだから必ず立ち直れる」と分からせたかった。その一言が言えなかったことが今も残念でなりません。

### 快・不快の貴重な体験と経験

総合教育研究部教授　**丸小　哲雄**

４年間の米国留学後、茨城県の私立大学に着任、６年後に本学の外国語部へ移籍し、在職32年。着任３年目の1982年に国際交流委員会が発足され、３年連続して短期留学生を米国へ引率、また大学のカリキュラム再編改革に伴う外国語部の見直しに参加、だがその最中に入試盗難事件が発生した。さらに組合委員長の時、当局に「事故調査委員会」再設置を要請、その要請内容から告訴問題へと発展。未解決のまま頓挫し慙愧にたえない、不快で不可解な体験。

しかし、教育と組合にかかわる諸活動を通して、研究対象の文芸学（美学）における「虚」の世界と「実」の世界の架橋そのものが「美的評価の対象」に昇華されうる貴重な美的経験。

教職員の皆さんにはさまざまな形でお世話になり感謝！ありがとう。民主化への歩みを堅持するよう祈念します。

### 木を見て森を見る

総合教育研究部教授　**野島　利彰**

私がドイツ語学研究に行き詰まっていた時に1984年度の駒澤大学在外研究員の順番が来ました。そこで心機一転、学生時代に興味を持った林学にしようと、ミュンヘン大学林業史研究所を志望しました。幸い教授会にも認められ、喜び勇んでドイツへ飛びましたが、聴かせてもらった林学の講義は期待と異なり、数字ばかり。滞在が苦痛に転じ始めました。しかし危うい所を「冬芽学」（冬芽で樹木名を同定する実習）に救われました。そこから「樹木学」につながり、樹木を知ることでドイツの森林が具体的な樹木の集合体になり、さらに「狩猟学」も加わり、林業史が生き生きとして来ました。私がドイツ林業史をなんとか研究対象にできたのはまさに在外研究員制度のお陰でした。

### キャンパスを歩く

総合教育研究部教授　**薮下　紘一**

私は北海道教養部で29年間、残りを駒沢キャンパスで過ごした。計42年間となる。駒澤大学に奉職した当時には思いもかけなかった東京の生活も長くなった。所属は外国語部から総合教育研究部になった。この間キャンパス再開発の計画が、青写真までできていて実現できなかったのは実に残念であった。私が生きている間に新旧の建物がともにあるキャンパスも見たいものだが…。小異を捨てて大同について計画し、駒大の持つ使命を全うしてもらいたいものだ。

私が担当したドイツ語には、多くの学生が熱心に取り組んでいた。受講生が少なく不活発な男子に対して、女子には情報を交換し合いどしどし勉強していく学生が多い。学生の意欲に応えていけるよう今以上に改革を進めていただきたい。

# 高祖降誕会

仏教学部講師　池上　光洋

１月26日は、日本曹洞宗の祖・道元禅師（1200～1253）が、京都の公家・久我氏の一員としてこの世に生まれた日。それを記念して全国の曹洞宗系寺院などで行われる法要が、高祖降誕会である。

しかし、救世主として生まれたイエスなどならいざ知らず、一貴族の子の誕生に、一体何の意味があるのだろう。釈尊には「生まれによりて……」の金口がある。我が道元禅師も、道をあきらめ、法を伝えたからこそ尊崇される存在となった。そのような意味からすれば、誰にでもある単なる誕生日ではなく、正師・天童如浄と相見した大宋・宝慶元年（1225）５月１日（旧暦）こそ、“高祖生誕の日”にふさわしいのではなかろうか。伝統を無批判に継承するのではなく、新たな歴史を創造する、それこそが大学に課せられた使命であろう（因みに、両祖降誕会が曹洞宗において公式行事化されたのは大正７年(1918)のことで、わずか90年ほどの歴史しかない)。

とはいえ、この世に生を受けなければその後の展開もなかったわけである。さまざまな問題をはらみつつ、素直な気持ちで高祖降誕会を祝いたい。

# 涅槃会

仏教学部准教授　程　　正

中国や日本などに伝わる北伝仏教では、釈尊の入滅を２月15日と定め、その日に合わせて行われる追悼報恩の法要を「涅槃会」と呼んでいます。涅槃とは、サンスクリット語のニルヴァーナの発音を写した言葉であり、われわれの身心を患わせる煩悩の炎が完全に吹き消された安らぎの状態、つまりさとりの境地を指します。

釈尊は釈迦国の王子として生まれ、王位の継承者と嘱望されて育てられましたが、人間を取り巻く生老病死という苦しみの根本的解決を求めて29歳で出家し、35歳で菩提樹の下での禅定により真理に目覚めました。しかし、その時点では、未来における生死の苦しみの原因をなくすことはできたものの、この世で寿命が続く間は、肉体による苦しみの束縛からの解放はありませんでした。その肉体の束縛からも解放され、身心ともに安穏の境地にいたったのが、80歳でクシナガラの沙羅双樹の下での入滅であることから、釈尊の入滅を「完全な涅槃」というようになりました。この身心ともに煩悩から解放されることを意味する涅槃は、のちに釈尊の教えを信仰し実践する仏道修行者が追求する究極の目標ともなったのです。

## 研究こぼれ話

### 会計基準の国際化を巡る動向

経営学部講師
河合　由佳理

近年、各国の会計基準を巡る情勢は大きく変化を遂げている。会計基準は、企業活動の成果を報告する際に、ものさしの役割を果たすものとして使用される。この会計基準は、従来、各国で設定されていたが、経済活動のグローバル化に伴い世界的に統一した国際会計基準の設定が進められている。

国際会計基準の特徴として、多くの資産や負債に公正価値評価を課している点が挙げられる。その測定方法の議論に注目すると、市場での観察レベルに応じて３段階の分類を用いている。活発な市場での公表価格が入手できる場合はそれほど問題ないが、価格が観察不能な場合は、予想キャッシュ・フローを用いて公正価値を算定するなど経営者の見積りが必要となる。こうして算定される数値の信頼性、評価差額の有用性の検証が重要な課題となっている。

私が研究を始めたころ、我が国における国際会計基準の知名度は低く、企業で実際に適用するといった議論はほとんど行われていなかったように思われる。しかし、国際会計基準は、今や100カ国以上で、適用もしくは任意適用され、我が国でも、2009年度決算よりグローバルに活躍する一部の上場企業を対象に任意適用が認められている。そして、上場企業で強制適用する議論も行われている。強制適用の時期は、当初の予定より延期することが本年６月に発表され、実務界では国際会計基準対応が減速したとの話も聞く。適用延期によって、国際会計基準の作成プロセスへの発言力低下等、危惧される点も多いが、将来的な強制適用を踏まえて慎重な対応が求められている。

### あなたは美人声？それとも…

総合教育研究部講師
勅使河原　三保子

私の研究テーマは私の担当科目（英語）からはちょっと想像が付かないでしょう。学生時代に留学生と交流するサークルに所属し、様々な国の留学生と接したのがきっかけで、彼らが話す日本語の発音に興味を持つようになりました。特に当時仲良くしていた複数のタイ人留学生が話す日本語から、共通してやわらかく少し子供っぽい印象を受けたのがきっかけで、人の話し方（声の出し方や発音の仕方）が聞き手に与える印象に興味を持つようになりました。

私たちは人の声を聞いて話し手に関する様々な情報を得ることができます。話し手の年齢層や性別、そして、訛りがあれば出身地も当てられるかもしれません。また、話し手の気分の良し悪しや、性格についても「活発そう」、「気難しそう」などとあれこれ想像できます。これらの話し手の特徴に関する印象は聞き手の間でよく一致するのですが、特に性格については実際の話し手の性格とは必ずしも一致しません。それは、私たちが人の話し方を聞いて形成する印象は、声に関するステレオタイプに基づいているからであって、こういう性格の人はこういう話し方をするという対応関係は特にないからです。私の研究では、人が話し声のどのような特徴に基づいて特定の印象を持つのか、音声に基づく印象形成のメカニズムを音声学的な立場から解明することを目指しています。

このような研究をしているので、研究テーマを人に話すと「どうしたら美人声になれますか？」という質問を受けたりします。今のところまだ明確な答えができませんので、しばしお待ちを…(笑)。

# 駒澤大学東日本大震災被災学生支援金ご寄付のお礼

学長　石井　清純

平成23年３月11日に発生した東日本大震災によって多くの方々が家や家族を失われました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げるとともに、貴い命を落とされた方々のご冥福をお祈りいたします。

本学の学生たちにも、震災によって物質的精神的被害を受けた者が少なからずおります。本学といたしましては、被災在校生全員が修学を継続できるよう、特別支援金を支給することといたしました。その原資とすべく、「駒澤大学東日本大震災被災学生支援金」として平成23年４月１日から募金活動を開始いたしましたところ、専任教職員のみならず、在学生保護者、同窓生、同窓生団体、宗門関係者等、多くの方々からご賛同いただき、平成23年12月１日現在で38,907,380円の寄付金が寄せられました。心温まるご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

皆様からお寄せいただきましたご厚志は、保証人の居住家屋が一部損壊以上の被害を受けた在学生、および保護者が居住地域からの避難を命じられた在学生を対象に右記の基準で支給することとし、平成23年11月２日現在で118人の学生を支援することができました。

また、これに加えて「大規模自然災害被災学生の授業料減免に関する規程」に基づき、被災状況に応じて本年度の授業料の全額または半額の免除を大学独自に実施しております。

大学といたしましては、来年度以降も家計急変等で経済状況が著しく悪化した被災学生に対し、継続的な支援を行っていく所存ですので、今後とも変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

募金状況につきましては、中間報告として、学外寄付者一覧を募金事務室ホームページ（http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/bokin/shienorei/）において公開いたしておりますのでご高覧いただければ幸いです。

| 駒澤大学東日本大震災被災学生支援金支給基準 | |
|---|---|
| 家屋の全壊あるいは半壊の場合 | 40万円 |
| 東京電力福島第１原発事故に伴う国の指示による避難の場合 | 40万円 |
| 家屋床上浸水の場合 | 30万円 |
| 家屋床下浸水の場合 | 20万円 |
| 家屋の一部損壊の場合 | 10万円 |

また、この「駒澤大学東日本大震災被災学生支援金」の支給を受けた本校在校生の保証人が、翌年度以降も生活条件の著しい困窮により本学在校生たる子女の学業継続に支障をきたす場合には、卒業最短年限について被災学生生活支援金を支給します。支給額は、単年度毎の申請に基づき、月額２万円を上限として支援します。

# “とどけ！　ぼくたち、わたしたちの声プロジェクト”

## ～被災地のこどもたちの声をあなたのもとに～

３月11日の東日本大震災後、様々なメディアが被災地の状況を伝える中、子どもたちの声は殆ど取り上げられませんでした。このことをきっかけに金山ゼミ有志12人で、被災地の子供たちの声を伝える番組「とどけ！ ぼくたち、わたしたちの声」の制作を始めました。プランジャパン、シャプラニール、セーブ・ザ・チルドレンなど現地で活動する国際NGOのご協力と、中央募金会の助成金をいただき、10月から制作・放送を行っています。これまでに福島、宮城、岩手など９カ所の被災地で子どもたちの声を収録し、放送してきました。

最初に訪れたのは宮城県多賀城市の中学校。地震と津波の爪痕が大きく残る光景と隣り合わせに生活する子どもたちは、明るい笑顔で私たちを迎えてくれました。避難所生活のこと、今だから思うこと、これからやりたいこと、街にのぞむこと、沢山のことを話してくれました。彼らの頼もしく前向きな言葉のひとつひとつが真っすぐで胸に響きました。

番組では幼稚園児から中学生まで、様々な子どもたちの声を伝えています。地震や津波で学校が倒壊し仮校舎で勉強している子どもたち、原発問題で外で遊べない子どもたちなど、境遇は様々。収録を重ね、子どもたちが感じていること、伝えようとしていることにしっかりと耳を傾けることが復興への一歩になると実感。彼らの声を新しい地域や社会づくりに活かして欲しいと強く思います。

番組は被災地内外のコミュニティFMや臨時災害放送局で放送されています。ネットラジオからも聴くことができます。最近では、ジョン・カビラさんなど有名なパーソナリティたちが制作している支援番組“声の便り”でも放送していただき、全国30局近くのコミュニティラジオで放送されています。また、読売新聞や河北新報、東京新聞などメディアでも取り上げられました。

番組は３月まで続きます。一人でも多くの人たちに子どもたちの声が届きますように！

番組HP　http://kanatomo-cafe.net/tohoku-kids-project/

（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾒﾃﾞｨｱ・ｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ学部 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾒﾃﾞｨｱ学科４年　中田 樹里）

MySeminar 私のゼミ vol.126

経済学部経済学科３年
矢野　景子

## 村松 幹二ゼミ

村松ゼミは、現在２年生の演習Ⅰが15人、３年生の演習Ⅱが13人、４年生の演習Ⅲおよび卒業研究が14人の合計42人で構成されているゼミです。

ゼミでは、まず２年次のうちに近代経済学の基礎知識を徹底的に身につけます。この時期には経済学の入門となる文献を読み、グループごとにレジュメを作成し、プレゼンテーションを行うことを通して、ゲーム理論を用いた企業戦略の分析や、雇用関係などについて学びます。

３年次では、２年次で身につけた基礎知識をもとに、一人ひとりが自分の興味関心のある分野でテーマを設けて論文に取り組みます。参考となる先行研究や論文を探し、先生にアドバイスをいただきながら、主体性を持って計画的に研究を進めます。その成果は論文集としてゼミでひとつの冊子にまとめ、就職活動の際にも利用できる形にまで仕上げます。

４年次には３年次での研究テーマを活かし、卒論の作成に移っていきます。また３年次の後半から４年次の前半には、就職活動に向けて業界研究等も行います。

このように、一連の流れのなかで型にはまることなく、様々な分野の知識に触れることができるのが私たちのゼミの特徴です。

その他にも、夏季休暇には合宿を行い、各学年の学習内容を発表する場を設けています。また、村松ゼミはゼミ生同士のつながりが非常に強く、新入生歓迎会やOB会などのイベントも随時行っています。同学年の横のつながりだけでなく、学年を越えた縦のつながりも深いので、楽しく共に学び合うことができます。村松ゼミは、勉強だけでなく人間的にも成長できるゼミだと思います。

## 新司法試験合格体験記

平成22年３月法科大学院修了　森澤　絵美さん

私は、駒澤大学法科大学院を修了し、今年度、２回目の受験で合格しました。

私は、法学部出身ではなく、法科大学院入学前まで法律の勉強をしたことがありませんでした。そのような私が法曹の道を志したのは、人身売買の研究のため、カンボジアを訪れた際、法整備に携わっている先生の話を伺い、国民生活における法律の重要性、市民の権利確保・権利向上のために法を適切に使うことのできる弁護士の役割の重要性を実感したからです。カンボジアでの経験がひとつのきっかけとなり、弁護士として、法律を使い、困っている人、苦しんでいる人を助けたい、人権救済事件を取り扱っていきたいという強い思いが生まれました。

しかし、新司法試験合格への道は容易なものではありませんでした。私は法科大学院入学前まで六法すら開いたことがなかったため、入学当初は、予習のため基本書を何度も繰り返し読んでもなかなか頭に入らず、授業にもついていくことができませんでした。正直、くじけそうになったこともあります。しかしながら、駒澤大学法科大学院は、学生と教員との距離が近く、授業において理解できない箇所があった場合、個別的に質問しやすい雰囲気が整っていました。また、駒澤大学法科大学院を修了した先輩方も、ゼミを組むなどして、親身になってわかりやすくサポートしてくださいました。そのため、私は、諦めることなく、法曹の道を目指し続けることができました。

私が新司法試験合格に向け歩むことができたのは、このような駒澤大学法科大学院の環境があったからこそだと思います。受験生の皆様にも、諦めることなく粘り強く頑張ってほしいと思います。

## オータムフェスティバル2011開催

2011年11月５日(土)・６日(日) に開催されたオータムフェスティバル（大学祭）は、雨模様の時間があったものの、13,800人ほどの方にご来場いただき、盛況のうちに無事終了しました。各クラブ、サークルの企画発表や模擬店のほか、お笑いライブ、ミス駒澤コンテストなどを開催。

５日は、ホームカミングデーも同時開催されており、現役大学生、同窓生、近隣にお住まいの方々など、大学に関わる世代を超えた多くの方々で賑わいました。

さらに、２日目は、「駅伝応援プロジェクト」を企画。大型モニターを設置し、当日、名古屋～伊勢間で行われていた『全日本大学駅伝』を応援し、優勝の歓喜がキャンパス内に響きわたりました。

（広報課）

学生企画

# 2011年度 駒澤大学体育会本部

皆さんは、体育会本部が実際にどのような活動をしているのかご存じでしょうかワいや、そもそも体育会本部の存在も知らない方々もいることでしょう！！教えましょう！！

体育会本部は、体育会40団体に所属する全ての団体からの「派遣メンバー」によって構成されています。月に2回ほど全員が集まり話し合いもしております。各クラブの主将が集まる代表者会議は年に2回行っています。

主な活動としては、フレッシュマンキャンプ、都道府県対抗駅伝への参加、スポーツフェスティバル、箱根駅伝壮行会、リーダーズマンキャンプ、玉川キャンパス周辺清掃です。全ての行事も体育会本部で考え議論し、実行して参りました。

## ☆ここで!!!写真と共に体育会3大行事を紹介します☆

### 11月29日開催 駒澤大学箱根駅伝壮行会

体育会本部として一番のイベントとなりました。

今まで数年間行われていなかった壮行会も今年度から体育会本部により復活させました。

横断幕も学生部の方々と相談して作成し、会場準備も本部役員全員が当日朝10時から行いました。事前には役員自らチラシも配って宣伝活動もしました。

※電気美術研究部、應援指導部ブルーペガサスの協力もあり盛大に開催することができました。

### 10月2日開催 スポーツフェスティバル IN 玉川

今年度で2回目となるこのイベントは、昨年度よりも発展することを目標に掲げ、実際には昨年度よりも多くの方々にご参加いただき、より充実したスポーツフェスティバルになったと思います。

### 毎月一回!!! 玉川キャンパス周辺清掃

これも今年度からはじまった体育会本部による行事です。毎月最終土曜日に開催しています。

最近玉川キャンパスで活動していないクラブも参加しました。皆さんお疲れ様でした。

**最後に・・・**

体育会から一般学生へ、一般学生から大学全体へ、を目標に1年間皆が協力し行動して参りました。今年度の体育会の活動で、少しは盛り上がってきたのではないかと感じます。体育会の人間として駒大発展のため行動して参ります。

# 就職支援

キャリアセンターでは皆さんの就職活動を応援します。
キャリアセンターイベント情報
(http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/careerschedule/)
以下の合同企業説明会には、全てリクルートスーツを着用し、出席してください。
内定を得た４年生は「進路届」「入社試験報告書」を提出してください。

## ４年生の皆さんへ

◎合同企業説明会開催
（平成24年４月入社対象）

①平成24年1月17日(火) 13:00 ～ 17:00
②平成24年2月17日(金) 13:00 ～ 17:00
※会場はいずれも記念講堂

(注)
1. 駒大生採用希望企業が来校しますので積極的に参加してください。
2. 企業名等はキャリアセンターホームページで確認してください。
3. 説明を希望する企業のホームページも参照し、企業研究をしてください。

## ３年生の皆さんへ

◎合同企業説明会開催
（平成25年４月入社対象）

①平成24年1月31日(火)～2月2日(木)
前半10:00～12:50　後半14:00～17:00

(注)前半と後半で企業が入れ替わります。駒大生採用希望企業400社が来校しますので積極的に参加してください。会場は９号館１～４階の各教室

②平成24年2月14日(火)～2月16日(木)
13:00 ～ 17:00

(注)駒大生採用希望企業45社が来校しますので積極的に参加してください。会場は記念講堂

## ２年生の皆さんへ

◎春季インターンシップのご案内

企業とのミスマッチをなくすには、企業体験が一番です。本学では、２年生の春休み、３年生の夏休みに実施しています。積極的に参加してください。

インターンシップに参加して

営業同行訪問などで様々な業界について知ることができ、今後の就職活動への視野が広がりました。また、意識の高い他大学生と出会い、共に課題に取り組むことによって、自分の強み、弱みを発見することができました。

インターンシップ参加前は抽象的に就職活動を想像していましたが、参加後は就職活動だけでなく、大学生活全般やその後の将来像まで意識的に考えるようになりました。

（経営学部経営学科３年・女性）

経済産業省主催

## 社会人基礎力 育成グランプリ関東地区大会

文学部社会学科社会学専攻　坪井 健ゼミ

### 準優秀賞！

2011年11月21日に東京・経済産業省で行われた社会人基礎力育成グランプリ関東地区大会において文学部社会学科の坪井ゼミが準優秀賞を獲得した。

この社会人基礎力育成グランプリを通して私たちが一番辛かったのは、ようやく出来上がった原稿やパワーポイントを一から作り直したことです。本番まで時間がなかったため22時近くまで大学に残ったり、一週間連続でゼミを行った時もあります。また、予行練習では大学教職員や社会人の方から厳しいお言葉をいただいた時も落ち込みました。しかし、どんな時も８人全員で意見を出し合い『私たちの成長をどうすれば分かりやすく、端的に、伝えることが出来るか』を必死に考えました。

本番はもちろん緊張しましたが、今までやってきたことに自信を持ってプレゼンすることができました。そしてその結果が準優秀賞！全員が涙を流して喜びました。後で審査員の方に聞いてみると「プロジェクトの社会性、地域への働きかけ、今後への継続性、自分の言葉で質問に即答したこと、それに元気の良さ」を評価したとのこと。私たち坪井ゼミ27期生らしさが伝わってとても嬉しく思います。

（文学部社会学科３年　井上　桜里）

# 短期語学セミナー実施 ～クィーンズランド大学～

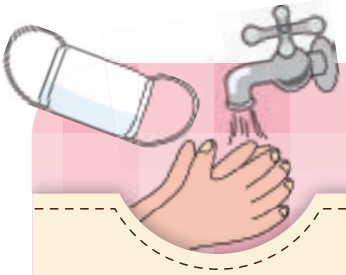
## 来日プログラム

本学協定校であるオーストラリアのクィーンズランド大学から、15人の留学生を迎えて実施される来日プログラム（日本学生支援機構の平成23年度留学生交流支援制度採択プログラム）は、今年度で23回目を数えるに至っている。

留学生は滞在期間中、日本語を学習するとともに、坐禅や空手、さらには本学学生の指導による茶道や書道などの日本伝統文化を肌で体験した。また、アクティビティとして訪れた浅草では、本学の学生ボランティアたちと雷おこしを作ったり、下町を散策したりして過ごし、日本の下町の風情を垣間見ることができた。

このプログラムの主眼は、留学生と本学学生とのキャンパス内はもとより、それだけにとどまらない国際交流にある。実施にあたり、ホームステイを受け入れてくださったご家庭の皆さま、温かい理解と多大なるご協力をいただいた国際親善協会会員各位や本学教職員各位に深く感謝するとともに、長期間にわたり献身的に留学生をサポートしてくれたボランティア学生諸君に改めて感謝し、今後とも数多くの学生諸君が、国際交流に参加してくれることを期待したい。

（国際センター）



## 保健管理センターだより+

# 冬と感染症

保健管理センター所長　吉川 宏起

日本は四季折々の変化に富む風物やさまざまな祭事・行事を楽しめる国です。しかし季節の変わり目は体調をくずしやすいといわれるように、私たちの体の防御機構つまり免疫機構にとってはこの四季の変化が手ごわい敵となっています。とくに冬は低気温と不十分な水分摂取による粘液分泌低下によって私たちの免疫力は低下します。これに反して低気温・低湿度を好むウィルスは夏よりも冬に長生きをします。飛沫に乗って人から人へ感染するインフルエンザウィルスは湿気の少ない冬にはより遠くまで移動して感染力を高め、秋から冬になると猛威をふるうノロウィルスは、感染者の体内で数を増して排泄物や吐物に多く存在し、冬の乾燥した状態でも長生きします。

この、冬に強いウィルスへの対策は、体内へのウィルスの侵入を防ぐことと日ごろから免疫力を高めておくことです。体内への侵入防御には人ごみでのマスク装着や、外出やトイレの後の手洗い、外出後のうがいが大事です。とくに手洗いは石鹸を十分に付け、手のひらや甲、指や爪の間、手首などを1分ほどかけてしっかりこすり洗いするとウィルス量は大幅に減ります。免疫力向上には精神神経系や自律神経系、ホルモン系のバランスが不可欠となります。偏らないバランスの良い食生活、十分な睡眠、適度な運動や休養によるストレス解消、リラクゼーションの誘導などが免疫力の向上に直結しています。体をあたため、ショウガ、カボチャ、ニンジンなどの体温を高める食事をとることも免疫力向上に役立ちます。また「笑う門には福来たる」というように、笑ってストレスを解消することは免疫機能の向上をはじめとした健康維持に役立ちます。

## 定期試験日程

**1月19日(木)・20日(金)、23日(月)～28日(土)、30日(月)**

※1月19日・20日・23日は、専門教育科目集中試験

※専門教育科目集中試験とは、履修者数が多い等の理由で授業曜日・時限と異なる日時で実施する試験です。

定期試験は全て、駒沢キャンパスで実施します。
詳細は、学内掲示・大学ホームページ・KONECO等で確認してください。

**学生証を忘れずに**

第8回

# ホームカミングデー ～同窓生が母校に集う日～ が開催されました。

Homecoming day

ホームカミングデーが、11月５日（土）に開催されました。この会は、「同窓生が母校に集う日」として第８回を迎え、今年もオータムフェスティバル（大学祭）との同時開催で大変賑やかな一日となりました。90歳以上のご高齢の同窓生にもご参加いただき、世代を超え、駒澤大学にご縁のある人々が集う会として、同窓生、現役大学生にも認知されるようになりました。回を重ねるごとに参加者が増え、今年は、約900人の方にご出席いただきました。

招待状は、メインゲスト（卒業後５年目、10年目、20年目、30年目、40年以上）の方にのみお送りいたしますが、同窓生の方はどなたでもご参加いただけます。来年度以降も多くの方々のご参加をお待ちしております。

（広報課）

## 参加者の声

### 夫婦で毎年参加しています！

**▶駒澤ファミリーを感じて**

ホームカミングデーに初参加したのは、４～５年前。きっかけは、８年前に結成された軽音楽部フォークソング研究会OB・OG会へ、パーティに出演する話があり、参加したこと。出席すると、諸先輩や同窓の皆さんが、和気あいあいと旧交を楽しむ、和やかなアットホームな雰囲気に、駒澤ファミリーの一員であることを感じました。それからは、同窓の妻と、秋の恒例行事として、毎年、先輩・同級生・後輩などを誘い、参加を心待ちにしています。

昭和 48 年度
文学部地理学科卒業　向後　雄一

### 新潟から来ました～

**▶思い出深い１日**

卒業から30年、懐かしい日々を思いつつ門をくぐると、そこには全国から駆け付けた旧友の顔があった。プログラムは多彩、マーチングバンド、三屋裕子講演会と続き、施設見学、いただいた食券で昼食、そして懇親パーティーへ。学食は卒業生で溢れ、シャンソンライブと共にお酒や食事を楽しみながら抽選会へと進み、盛況のうちに閉会となった。沢山のお土産をいただき、友人と再会を約束した。本当に楽しく、思い出深い１日となった。

昭和 55 年度
経済学部経済学科卒業　小林　優子

### 親子で参加して２年目…

**▶第８回「ホームカミングデー」に参加して**

11月５日、秋晴れのもと、学生諸君の元気で明るい声に導かれ、会場に入りました。吹奏楽部のマーチングバンドは、勇壮で期待どおりであり、校歌の演奏のときは、なつかしさで思わず口ずさみました。三屋裕子さんの講演は、子供の頃からの苦労話などもあり、心に残りました。午後、キャンパス内を見学しながら、45年前の学生時代を思いおこし、来年は家内と一緒に参加しようとの思いを胸に家路につきました。

昭和 42 年度 商経学部商経学科卒業　鈴木　幸雄

**▶母校に行くとても良いきっかけとなっております！**

昨年度、卒業後10年が経過したため、初めて招待状をいただいたことが参加のきっかけとなり、今回も参加させていただきました。オープニングの吹奏楽部による演奏会や著名な方による講演会は、貴重な体験となりました。当日は大学祭も同時開催でしたので、現役の駒大生とも交流することができ、懐かしく楽しい時間を過ごすことが出来ました。社会に出てからは、母校に行く機会というのはなかなかないので、このような形で訪問できる機会があるのは、とてもありがたいです。今後も末永く続けていっていただきたいです。

平成 12 年度
経済学部商学科卒業　鈴木　亮

# 一石二鳥の無料法律相談

法科大学院特任教授　比佐　守男

駒澤大学法科大学院では、毎年春と秋の２回、無料法律相談を行っています。

春は本大学院と協力関係にある第一東京弁護士会及び法テラスと共催して渋谷シビック法律事務所で行われ、秋は本学の法科大学院棟で行います。

通常の法律相談は相談者のプライバシーの問題などの関係で学生の同席が難しいのですが、この無料法律相談は事前に学生が同席することを前提に相談者を募り実施しています。今秋の相談は、本大学院実務家教員５人と渋谷シビック法律事務所の弁護士１人が担当し、そばで学生が傍聴し、相談後に担当者と学生が検討いたしました。

法律相談には地元の方々が多くみえられ、地域社会と駒澤大学との結びつきを感じます。私が秋の法律相談で担当したのは、相続・遺言、建物明渡、養子縁組の３件でした。最後の案件は，かなり複雑な内容でしたが、相談者の面前で同席した学生と一緒に民法の条文等を調べて議論しました。結果的に適切な回答ができて相談者が喜んで帰られたことが印象的でしたし、学生も弁護士の仕事の一端を感じ取ってくれたのではないかと思っています。

弁護士は医師とよく比較されます。最近の若い医師に対する批判として、患者（人間）を見ずにデータの入ったパソコンの画面ばかり見ているというのがあるそうですが、この傾向は若い弁護士にも当てはまるかもしれません。

しかし、私たち駒澤大学法科大学院の教員は建学の理念に根ざした「人に寄り添う法曹＝駒澤法曹」を養成するために教育をしています。この無料法律相談は、相談者の悩みや苦しみに法曹はどのように対応するのか、それを学生が身を持って体験できる場です。これは相談者のためにもなり、学生の勉強にもなるという、いわば一石二鳥の好企画ではないかと自負しております。

## 第２回創元SF短編賞受賞

# 『繭の見る夢』（創元 SF 文庫）空木春宵

横地健悟さん（文学部国文学科４年）が、第２回創元SF短編賞を受賞した。この賞は、新時代のSF短編の書き手を発掘するために、東京創元社の主催によって行われるもので、受賞作１編、佳作１編、審査員特別賞３編が選ばれる。

その第２回目の賞になる今回、横地さんは、昨年５月に行われた最終選考の結果、594編の応募作のなかから、次席に当たる佳作を受賞した。

受賞した作品は、空木春宵（うつぎしゅんしょう）の筆名によって応募した『繭の見る夢』と題するSF小説。８月に行われた同賞の贈呈式では「虫めづる姫君からはじまる美しい作品」と紹介されたように、平安時代を舞台とした怪異譚（かいいたん）的な作品で、広義の言語SFというジャンルに属している。江戸川乱歩や久生十蘭を敬愛するという、著者ならではの幻想的な物語世界が夢のように展開されている。

審査員の選評などは、すでに『ミステリーズ！』47号に発表されているが、受賞作品そのものは他の受賞作などと共に、SF短編アンソロジーの形で、創元SF文庫の一冊として２月に刊行予定とのこと。空木春宵の今後に注目したい。（広報課）

## 駒澤大学学術褒賞について

駒澤大学学術褒賞とは、曹洞宗の教学及び駒澤大学の学術の振興をはかることを目的に、「曹洞宗特別奨励賞」及び「駒澤大学学術文化賞」を設け、各々の専門分野において学術上顕著な業績を発表した方に対して褒賞を行うものです。

今年度、曹洞宗特別奨励賞には総合教育研究部の小川隆教授、仏教学部の舘隆志非常勤講師、曹洞宗高岩寺の来馬明規住職の業績、駒澤大学学術文化賞には経済学部の番場博之教授の業績が受賞候補として推薦されました。４氏の業績は、曹洞宗特別奨励賞選考委員会及び駒澤大学学術文化賞選考委員会において慎重に審議され、この度の受賞が決定いたしました。なお、４氏には、12月８日に執り行われた成道会法要の際に、賞状と賞金が授与されました。

（法人企画室）

### 平成23年度　駒澤大学学術褒賞受賞者一覧

#### 曹洞宗特別奨励賞

【仏教学・禅学・宗学部門】

業績名：『語録の思想史－中国禅の研究－』

受賞者：駒澤大学総合教育研究部教授　小川（おがわ）　隆（たかし）

**受賞理由**

中国禅の語録を語学的に精緻（せいち）に解読することにより、従来の禅宗史の枠組みにとどまらない「語学の思想史」という新たな視点を提示したものであり、中国禅宗史研究に大きな進展をもたらし、今後の研究方法をも示した画期的な成果であるという点が高く評価できる。

業績名：『園城寺公胤（おんじょうじこういん）の研究』

受賞者：駒澤大学仏教学部非常勤講師　舘（たち）　隆志（りゅうし）

**受賞理由**

園城寺公胤に関する研究を飛躍的に発展させ、日本の古代末から中世初頭における仏教史研究に多大な貢献をなしたという点が高く評価できる。また、従来の仏教研究では軽視されがちな史料をも調査対象に加えており、史料蒐集とその活用法についても注目に値する。

【教化学部門】

業績名：「『祖師に学ぶ禁煙の教え』及び禁煙推進活動について」

受賞者：曹洞宗高岩寺住職　来馬（くるま）　明規（めいき）

**受賞理由**

著書については、『曹洞宗全書』の禁煙に関する説示を詳細に解説し、世間に周知した功績が評価できる。禁煙推進活動については、論文や講演活動、高岩寺の寺域全体の禁煙化や海外での活動など、禁煙推進活動の多彩さと積極性が高く評価できる。

#### 駒澤大学学術文化賞

業績名：『職業教育と商業高校－新制高等学校における商業科の変遷と商業教育の変容－』

受賞者：駒澤大学経済学部教授　番場（ばんば）　博之（ひろゆき）

**受賞理由**

1990年代から今日までの高等学校の商業教育に関する研究は皆無に近く、今後さらに研究を深めるきっかけになり得る業績である。また、戦後の商業教育の変遷を分析しただけでなく、商業教育の問題点と今後改革すべき方向性を明示している点が高く評価できる。

# 戦国史研究会

昨年のNHK大河ドラマ「江」は、戦国時代の物語でした。週に１度の放送を楽しみにされていた方もいるのではないでしょうか。今回のサークル訪問は、戦国時代に魅せられた学生が集う「戦国史研究会」です。1971年に創設された戦国史研究会は、現在の顧問である久保田昌希教授が、駒澤大学文学部２年生のころにつくられた歴史ある研究会です。週に２回、学内の教室にて行う活動は、大河ドラマや時代小説を楽しむといった趣味の領域にとどまらず、戦国時代に書かれた書物（歴史用語では、「古文書」と言います）を読み解き、内容を考察し、各研究会員が興味を持った人物や事柄に関して各々レジュメ形式でまとめ、発表を行ったりと、歴史研究そのものです。長期休暇中には、合宿で、静岡県浜松市北区三ヶ日町に30年間ほど訪れています。近年では、高野山真言宗大福寺というお寺に残る史料の調査を行っています。史料調査は、後世の人々が史料を、より分かりやすく、かつ使いやすくするために必要な作業となります。また、戦国史研究会は、学生同士の横の繋がりだけではなく、OB・OGの方々との縦の繋がりが強い研究会でもあります。今年度研究会チーフを務める、橋詰将哉さんと、来年度チーフを務める吉成大輝さんは、研究会に所属したことで学ぶことができた歴史研究の術や、貴重な史料を読み解けた際の感動は、何にも代えがたい体験であると語っていました。戦国史を追究したい方、より深く学びたい方は、ぜひ一度研究会の活動に参加してみてください。

（学生記者 文学部歴史学科３年 山下 朝子）

# 2011スポーツフェスティバル in 玉川

## ２年目を迎えてさらに熱い気持ちで・・・
## スポーツを通じての地域交流・貢献を目指して

昨年度から始めた駒澤大学体育会による玉川キャンパスでのスポーツ教室と練習見学会を内容とするイベント「2011スポーツフェスティバルin玉川」を10月２日（日）に開催しました。

昨年度は39団体であった体育会にオーストラリアンフットボール部“マグパイズ”が加わり、40団体で昨年度以上のイベントにしようと、ポスター・チラシの作成や告知活動などを早めに始動しました。今年度も世田谷区と駒澤大学教育後援会に後援していただき、喜多見地区自治会の皆さまのご協力を得て、実施のための広報活動ができました。

午前に開催されたスポーツ教室では、約400人の体育会学生と200人以上の参加者で、「楽しく」、「笑顔で」スポーツを通じた交流ができました。

午後は、今回からの新しい企画として、男子バレーボール部やアメリカンフットボール部の関東学生リーグ戦の応援見学を行いました。この企画は大変好評で、見学者数も300人を超え、玉川キャンパスは、日頃とは違った活気があふれていました。

このイベントの企画・準備・実行力は、駒澤大学体育会40団体の力です。それぞれのクラブ活動でもこの力を生かして更なる活躍を期待したいと思います。

来年度は、一般参加者の募集も検討中です。学生・教員・職員など多くの方々の参加ができるよう次回開催に向けて、計画して行きたいと思います。駒澤大学全体で取り組んで「駒澤力」を発揮しよう！

（学生部）

**スポーツ教室開催団体**

合気道部・女子合気道部・卓球部・陸上競技部・硬式野球部・硬式テニス部・軟式庭球部・体操競技部・洋弓部・オーストラリアンフットボール部“マグパイズ”・サッカー部

**練習見学開催団体**

男子バレーボール部・ボクシング部・相撲部・柔道部・剣道部・チアリーディング部 BLUE JAYS・アメリカンフットボール部

# サークルの活動報告

## ボクシング部

### 山口国体で、３人が優勝！

第66回国民体育大会（おいでませ！山口国体）・ボクシング競技が10月６日（木）～10日（月）の５日間にわたって、上関町民体育館で行われた。本学ボクシング部から12人、OB１人が、各県代表として出場した。

特筆すべきは、林田太郎が国体３連覇を達成し、弟の林田翔太と共に兄弟優勝を果たした。また、ミドル級の濵﨑良太は、リーグ戦での怪我を乗り越え、高校・大学を通じて初のタイトルを獲得した。来年度、最終学年となるが、更なる活躍に期待したい。

今回の結果に対し、選手たちに敬意を表し、今後、更なる飛躍を目指し精進していきたい。

【入賞者】

| | | |
|---|---|---|
| ライトフライ級 | 林田　太郎（経済４・千葉県） | 優勝 |
| ライトフライ級 | 楠　朱貴（歴史４・和歌山県） | ３位 |
| ライトフライ級 | 星島　義樹（国文２・岡山県） | ５位 |
| フライ級 | 林田　翔太（商１・千葉県） | 優勝 |
| フライ級 | 安納　佑樹（経済１・栃木県） | ５位 |
| ライト級 | 志渡澤　和広（仏教２・岡山県） | ５位 |
| ミドル級 | 濵﨑　良太（禅３・岡山県） | 優勝 |

### 全日本アマチュアボクシング選手権でも奮闘！！

第81回全日本アマチュアボクシング選手権大会が11月16日（水）～20日（日）の５日間にわたって、岐阜産業会館で行われた。本学ボクシング部から６人、OB１人が出場した。

今大会は今年開催のロンドンオリンピックを控え、アジア大陸予選に繋がる重要な大会であった。これまで全日本選手権を３度制している林田太郎の４連覇に期待がかかったが、決勝戦でポイント負けを喫し、惜しくも２位に終わった。北京オリンピック代表のOB清水聡も２大会連続のオリンピック出場を果たすには落とせない戦いであったが、準決勝でまさかの敗退。３位という結果であった。“最高”の結果を得ることができなかったが、林田翔太、志渡澤和広、濵﨑良太は、今大会の優勝者に、渡部哲也は準優勝者と対戦し敗れている。各人ともに試合内容では決して劣っていなかった。今大会の敗因についてしっかりと分析し、更なるレベルアップを図り、今後の競技活動に活かしてもらいたい。

【入賞者】

| | | |
|---|---|---|
| ライトフライ級 | 林田　太郎（経済４） | ２位 |
| フライ級 | 林田　翔太（商１） | ３位 |
| ミドル級 | 濵﨑　良太（禅３） | ３位 |

（ボクシング部コーチ　小山田 裕二）

## 空手道部

2011年10月13日～16日、マレーシア・マラッカ市で開催された第７回世界ジュニア＆カデット21アンダー空手選手権大会において21アンダー（女子個人組手－53kg級）に本学空手道部の廣瀬まり（仏教１）が日本代表として出場し、銅メダルを獲得した。廣瀬は準々決勝でドイツの選手に延長戦の末敗れたが、その後敗者復活戦にまわり、３位決定戦でカザフスタンの選手相手に5-1で勝利、見事メダルを獲得した。廣瀬は４月に入学したばかりであるが、大学の試合でも即戦力としてレギュラーに定着しており、７月に行われた全日本学生空手道選手権大会では１年生ながら女子個人組手で堂々３位入賞を果たしている。今後の更なる活躍を期待したい。

（空手道部監督　杉山 俊輔）

## 柔道部

私たち駒澤大学柔道部は光永先生ご指導の下、日々の稽古に励んでおります。柔道部としてスポーツ推薦入試が始まって今年度は３年目になり、５月の全日本学生柔道優勝大会ではベスト16、10月の全日本学生柔道体重別団体優勝大会には初出場を果たし飛躍の一年になりました。来年度は、部としての体制が完成する年になります。今まで以上の成績を残すため、部員一丸となって稽古に取り組んでいきたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

（政治学科３年　鎌倉 康成）

## 管弦楽団

### 駒澤大学管弦楽団 第34回定期演奏会

去る11月19日（土）に昭和女子大学人見記念講堂において第34回定期演奏会が催されました。管弦楽団は、年に２回、春と秋に演奏会を催していますが、昨年は東日本大震災の影響により、春の演奏会が中止となりました。春の演奏会のために練習していた曲をそのまま秋の演奏会にスライドすることも考えられましたが、気分を一新して、全く違ったプログラムで臨むこととなりました。

オーケストラにはコンクールなど、第三者が評価をし、他者と比べるようなことがありません。それ故に、自分達の音がどう響いているのか、どう聞こえているのか、演奏する者同士で感じ取りながら音楽を作っていく必要があります。指揮者はいますが、曲作りの指標であり、ひとつひとつの音を出す者はそれぞれが責任をもたなければなりません。本番と練習では会場も違います。練習のときの響きとの違いを瞬時に感じとり、他の楽器との調和をはかります。むずかしいことではありますが、同時にオーケストラで演奏する醍醐味でもあります。

今回の演奏会当日はあいにくの天候で、雨・風が吹きすさぶ空模様の中にも関わらず、温かい拍手を贈っていただいた観客の皆さまには感謝申し上げます。2012年は35回目という節目の年です。皆さまに楽しんでいただけるよう団員一同、日々精進して参りますので、ぜひ今後とも駒澤大学管弦楽団をよろしくお願いいたします。

（管弦楽団OB　大塚 勇平）

### サークルの活動予定　声援歓迎　皆さんの応援をお願いします

**体育会（４団体）**

**●自転車部**
- 第５回明治神宮外苑学生自転車クリテリウム大会／２月19日（日）／明治神宮外苑

**●一般スキー部**
- 第39回全国学生岩岳スキー大会（基礎スキーの部）／２月26日（日）～３月２日（金）／白馬岩岳スキー場
- S.I.G学生基礎スキー技術研修発表会／３月13日（火）～18日（日）／車山スキー場

**●硬式テニス部**
- 平成23年度関東学生新進テニス選手権大会／２月27日（月）～３月５日（月）／各大学テニスコート・有明テニスの森公園

**●陸上競技部**
- 千葉国際クロスカントリー／２月12日（日）／昭和の森
- 福岡国際クロスカントリー／２月25日（土）／海の中道
- 日本学生ハーフマラソン／３月11日（日）／立川

# 第88回 東京箱根間往復大学駅伝競走

## チームワークでの総合第2位

2012年1月2日、3日、東京・大手町～箱根・芦ノ湖を往復するコースで行われた「第88回東京箱根間往復大学駅伝競走」において、本学陸上競技部は、11時間0分38秒のタイムで総合準優勝の成績をおさめた。

優勝候補の一角と評され臨んだ今大会。1区は常に安定した力を発揮している撹上宏光(経済3）が、本学歴代トップクラスの好走。先頭と24秒差の3位で2区村山謙太（経済1）に襷リレー。1年生ながらエース区間を任された村山は、トップと53秒差の5位で3区油布郁人（経営2）へ繋いだが、さらに2分13秒差に広げられてしまう。4区久我和弥（社会3）は、巻き返しを図り順位を4位へ上げ、山登りの5区井上翔太（グローバル・メディア4）へ。主将の井上は、往路4位でフィニッシュ。翌日の復路にすべてを託した。

6区は、3年連続山下りに挑む千葉健太（経済3)。順位を維持し4位で7区上野渉（政治3）へ。上野は、序盤、前を行く早稲田、明治に追いつき3位に浮上。8区は、高瀬泰一（商4）が4位で繋ぎ、エース9区窪田忍（経済2）へ。窪田は、強気の走りで前を行くチームを猛追し、チームを2位に押し上げた。自身も2年連続の区間賞を獲得。10区後藤田健介（法律3）の走りに復路優勝の期待がかかったが、駒澤大学は、総合、復路ともに第２位となった。

山下りの千葉から７区上野へ

早稲田大に競り勝つ窪田

今レースに出場した4年生は2人。ほとんどのメンバーが来シーズンのレースに向かって新たな決意を口にした。4月には実力のある1年生も入学予定。レース後大八木監督は、「来シーズンは三冠を狙う！」と宣言。すでに次のレースへの戦いは始まっている。

区間賞　上段：個人順位）タイム　下段：通算順位）タイム

| 総合成績 | | 第1区（21.4km） | 第2区（23.2km） | 第3区（21.5km） | 第4区（18.5km） | 第5区（23.4km） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2位<br>駒澤大学<br>11:00:38<br>(217.9km)<br>往路4位<br>5:31:28<br>復路2位<br>5:29:10 | 往路 | 撹上 宏光<br>3）1:02:27<br>3）1:02:27 | 村山 謙太<br>9）1:09:04<br>5）2:11:31 | 油布 郁人<br>12）1:04:03<br>6）3:15:34 | 久我 和弥<br>3）54:59<br>4）4:10:33 | 井上 翔太<br>4）1:20:55<br>4）5:31:28 |
| | | 第6区（20.8km） | 第7区（21.3km） | 第8区（21.5km） | 第9区（23.2km） | 第10区（23.1km） |
| | 復路 | 千葉 健太<br>5）59:39<br>4）6:31:07 | 上野 渉<br>2）1:03:29<br>3）7:34:36 | 高瀬 泰一<br>4）1:05:38<br>4）8:40:14 | 窪田 忍<br>1）1:09:06<br>2）9:49:20 | 後藤田 健介<br>5）1:11:18<br>2）11:00:38 |

# 第23回出雲全日本大学選抜駅伝競走

## 終盤の追い上げで第2位

大学三大駅伝の初戦「第23回出雲全日本大学選抜駅伝競走」は、2011年10月10日（月・祝）に出雲大社→出雲ドームの６区間（44.5km）で行われた。１区で13位と出遅れたものの、実力どおりのチーム力を発揮しジワジワと順位を上げ、第２位でフィニッシュ。レース前の評価は、優勝候補筆頭に名を連ねていたものの第２位という結果に選手たちは悔し涙を流し、監督も「悔しい」とのコメントを残した。レース翌日も早朝５時から練習開始。全日本大学駅伝、箱根駅伝へ向けての戦いはすぐに始まった。

# 第43回全日本大学駅伝対校選手権大会

## 王者の貫禄を見せつけ、3年ぶり9回目の優勝

11月6日(日)、名古屋・熱田神宮→伊勢・伊勢神宮の8区間106.8kmのコースで行われた「第43回全日本大学駅伝対校選手権大会」は、本学陸上競技部が3年ぶり9回目の優勝を成し遂げた。

１区・撹上宏光（経済３）が３位で襷を繋ぐと、２区の村山謙太（経済１）が７km付近で前に出た。後続と23秒差をつけトップで３区油布郁人（経営２）に。３区油布、４区上野渉（政治３）、５区久我和弥（社会３）、７区高瀬泰一（商４）が区間賞の快走でアンカー窪田忍（経済２）にすべてを託した。窪田は、焦ることなくタイムを刻み、満面の笑みでトップでゴールテープを切った。本学の全選手が区間３位以内という安定した力を見せつけて優勝を手にした。箱根駅伝の前哨戦とも称されるこのレース。レース後、大八木監督は、「胴上げは箱根で勝ってから」とコメント。名将の言葉に、箱根での勝利に向かって新たな決意が見えた。

窪田は満面の笑みでゴール

２区村山から３区油布（右）へ

区間賞　上段：個人順位）タイム　下段：通算順位）タイム

| 総合成績 | 第1区（14.6km） | 第2区（13.2km） | 第3区（9.5km） | 第4区（14.0km） |
|---|---|---|---|---|
| 総合成績<br>優勝<br>駒澤大学<br>5:15:46<br>(106.8km) | 撹上 宏光<br>3）43:42<br>3）43:42 | 村山 謙太<br>3）38:23<br>1）1:22:05 | 油布 郁人<br>1）27:13<br>1）1:49:18 | 上野 渉<br>1）40:56<br>1）2:30:14 |
| | 第5区（11.6km） | 第6区（12.3km） | 第7区（11.9km） | 第8区（19.7km） |
| | 久我 和弥<br>1）34:15<br>1）3:04:29 | 中村 匠吾<br>3）36:59<br>1）3:41:28 | 高瀬 泰一<br>1）35:23<br>1）4:16:51 | 窪田 忍<br>3）58:55<br>1）5:15:46 |

大学からのお知らせは、駒澤大学ケータイサイトへ